

(様式第1号)

令和元年度 第1回芦屋市環境審議会 会議録

日 時	令和元年7月25日(木) 14:00~16:00
場 所	芦屋市役所東館3階 大会議室2
出席者	会 長 久 隆 浩 副 会 長 秋 本 久 美 子 委 員 伊 藤 明 子 委 員 近 藤 博 幸 委 員 多 田 洋 子 委 員 天 王 寺 谷 祥 一 委 員 長 城 紀 道 委 員 美 濃 伸 之 委 員 寺 前 尊 文 欠席委員 市 橋 純 子 欠席委員 井 上 尚 之 欠席委員 中 島 健 一 事 務 局 森 田 昭 弘 事 務 局 米 村 昌 純 事 務 局 岡 本 祐 子 事 務 局 横 田 愛 里
事 務 局	環 境 課
会議の公開	■ 公 開
傍聴者数	0 名

1 会議次第

- (1) 開 会
- (2) 委員及び行政職員の紹介
- (3) 会 議
 - 1) 委員出席状況の報告
 - 2) 署名委員の指名
 - 3) 議 事
 - ① 第3次芦屋市環境計画中間評価について
 - ・アンケート内容の検討
 - ・今後の進行管理の方法について
- (4) そ の 他
- (5) 閉 会

2 提出資料

- ①会議次第
- ②芦屋市環境審議会 委員名簿
- ③「第3次芦屋市環境計画」中間評価について（資料①）
- ④アンケート（案）
- ⑤今後の進行管理の方法について（資料②）

3 会議経過

開 会

事務局より開会挨拶及び提出資料確認

委員及び行政職員紹介

森田部長あいさつ

会 議

(1) 委員出席状況の報告

事務局より、定数12名中、9名の出席につき会議成立と報告。

(2) 署名委員の指名

芦屋市環境審議会規則第5条の2第2項に基づき、久会長より長城委員及び美濃委員を署名委員に指名。

(3) 会議の公開・非公開の決定

出席委員の全会一致により公開を決定。また、会議録についても公開を決定。

また、この時点で傍聴希望者はなし。

議 事

① 第3次芦屋市環境計画の中間評価について

(久会長)

「事務局より説明をお願いします。」

(株式会社サンワコン（以下、「サンワコン」）担当者の入室)

事務局より委員のみなさまからいただいた意見を、最終の中間評価報告に向けた作業に反映できるようサンワコン担当者を同席させたい旨を提案し、出席委員の全会一致でこれを承認。担当者2名が入室。

(事務局より資料説明)

(寺前委員)

「今回のアンケートは、小学生と中学生にも協力していただいて実施されるということですが、芦屋市の過去のパブリックコメントやアンケート調査において未成年を対象とした事例はありますか？」

(事務局)

「この計画を策定した際に実施したアンケートでも、小学生と中学生にご協力いただき、今回の実施も、そのことが背景にあります。その他の過去の事例については、現時点で把握しておりません。」

(寺前委員)

「環境計画の策定時にも小学生と中学生を対象に実施したということでした。お子さんにも意見聴取されるのは、将来の世代を担うものとして大事であると考えます。一方で、若い方々に環境啓発をしようといった告知的な要素もあるのでしょうか？」

(事務局)

「この環境計画は、行政だけで環境を良くしていこうという計画ではなく、市民の方もまきこんで、全体で実施していくための計画となっています。そのため、環境教育の面でも今後の進め方や、目標設定にも反映させていくことができると考えております。小学生・中学生がどのような考えや認識をもっているのか、どのようなことに興味があるのかを知り、今後につなげるという目的もあります。」

(寺前委員)

「小・中学生にもアンケートに協力いただくのは、大賛成です。職員や小中学生の回答率は、おそらく高いものと考えます。市民の方に関しては、どれくらいの回収率を予定していますか？」

(事務局)

「通常のアンケートでは、回収率が20%や30%程度が一般的だとされておりますが、計画を策定した時に実施したアンケートでは、50%を超える回収率でした。そのことから、市民の方の環境に関する関心は高いと考えており、今回も50%程度の回収を予定しております。」

(久会長)

「そのような回収率のことも考慮し、2000名が対象となっていることかと思えます。他市でもこのような計画に携わっているが、だいたい良くて40%、普通は30%ぐらいであるように認識しています。その中で50%の回収率は、非常に良いと考えます。寺前

委員の話でいうと、環境計画の中に環境教育の話も盛り込んでおり、小・中学生へ向けての環境教育は今まで積極的に取り組んでいます。今後も継続して取り組んでもらえたらと思います。」

(長城委員)

「アンケートの聞き方や意図していることについて教えてください。1つ目が、市民用アンケート5ページの大きな項目3の1)の質問についてです。3と4の回答が、どのような違いを意識しているのか分かりにくいです。3は環境を守ることは大切だが、ライフスタイルは変えたくない。4は環境を守るために、今のライフスタイルを変える気はない。文末の「変えたくない」を、さらに強い拒絶のような意味で「変える気がない」と設けたのか、それとも前半にある「環境を守ることは大切だ」と言うことに対する意識の有無で、3と4を分けたのか。3と4で迷う人がいるのではないのでしょうか？」

(事務局)

「変える気がないという気持ちの強さを聞いているのではなく、「環境を守ることは大切」という認識はあるが今の生活は変えられない、という考えを聞きたいと考えています。4は、環境を守る必要がないと思っているため、ライフスタイルを変える必要はないという方に選んでいただく。3は、大切であることは分かっているが、だからといって何をしたらよいのか分からない。という方に選んでいただく。そのような意図で分けています。」

(長城委員)

「お子さんへのアンケートにも同様の設問があるため、おそらくそのような違いであるとは思っていました。そうであるならば、4の聞き方を変えた方が分かりやすいのではと思います。」

もう1点、市民用調査票の4ページについてです。追加された設問が3つあるうちの、「SDGs」と「COOL CHOICE」についての設問ですが、下に説明がある状況だと、深く考えずに回答される方は「知っている」と回答される方が多いと考えます。そのため、聞き方としては「知っていましたか」という方が実態に近い答えが得られるかと思えます。」

(事務局)

「私たちは環境に携わっている身なので、当たり前のように耳にする言葉ですが、イベント等で「COOL CHOICE」の啓発を行うと、「COOL CHOICE」という言葉そのものを聞いたことがない方や、ご存じない方が多い。私たちが当たり前と思っていることも、一般の方にとってはそうではないと感じており、「知っていましたか」という言い回しは、知っているのが当然であるような印象を与えかねないと思うので、「知っ

ていますか」という言い回しでいきたいと思います。」

(久会長)

「長城委員の前半の話について言うと、私は環境・まちづくり系専攻というところで教えています。1年生に「みなさん環境・まちづくり系専攻に入学したということは、環境のことをなんとかしようと思っていますね。」ということをもまず聞きます。次に、「何か環境に配慮していますか？」ということを知ると、ほとんどの学生がしていません。そのようなカテゴリーで言うと、3になると思います。「わかっているけど、何かできているわけではない。」という選択肢であると考えます。4の方は、ストレートに言うと、大切であるかどうかということも考えておらず、自分がしたいようにしたら良いということになるかと思っています。先ほど話にあったように、分かりにくいということであれば、分かりやすい言葉遣いに変えてみるのも良いかと思っています。」

(久会長)

「今回はもう難しいかとは思いますが、今世の中がIT社会になってきている中で、今後はWEBアンケートができれば良いと思います。回答される方にとっては、紙を持って歩くより自分が回答できる時にWEBで出来る方が良いと思いますし、環境問題の観点でもWEBで行うとペーパーレスになるため、一つの手段として検討いただけたらと思います。」

② 第3次芦屋市環境計画の今後の進行管理の方法について

(久会長)

「事務局より説明をお願いします。」

(事務局より資料説明)

(久会長)

「いろんな観点で評価しなければならないということで、試行錯誤の状況です。」

(美濃委員)

「量や質の評価は良いと思います。ただ質の評価に関しては、よくできた、よくできていないということより説明責任を果たすような要素が必要になってくると考えます。そうすると、質の評価の軸、何ができて何ができていないのかという点でみんなが理解することが大切。担当課の方がどのような評価をしたかの中身を、市民がわかるほうが望ましいです。市民はそこが知りたいので。自分がいいと思っているからいい評価にした、と捉えて

しまう可能性もあります。」

(久会長)

「アウトプット評価とアウトカム評価という言い方があります。どれだけ頑張ったという評価、あるいはどのような効果がでたのかという評価。どうしても、がんばっています評価になって、効果がありますという評価にはなかなか見えないということがあります。可能であれば、成果が出ていますという評価であるほうが、望んでいるものと合致するのではないかと思います。どのような評価をしてくださいというガイドラインのようなものがあれば、ばらつきがなくなって良いと思います。他市で総合計画の年次評価に携わっているが、Bばかりになってしまいます。なぜかと聞くと中々答えは返ってきません。ズバリ言うと、Cはカッコ悪い、Aはつける自信がないということで9割はBに収まってしまいうためです。そこで私からお願いをしていて、正直にC、Dをつけていただきたいということを言っています。がんばっているか、がんばっていないかを聞いているわけではなく、みなさんががんばっている前提のもとで効果が出ているかどうかで評価をすることが大切です。C、Dがついていた場合、頑張っていない、さぼっているということではなく、頑張っているがいろいろな理由で効果が出ていないという事を評価します。そこを評価することによって、DをCに、CをBにもっていくための改善策が見えてきます。最初の評価を甘くつけてしまうと、改善策をきちんとかけません。ですので、正直に評価していきましょうという約束の下、始めているところです。やり方が悪いのだろうか、あるいは、市民のご協力が得られていないからなのか、など見極めをしていただいて次年度の対策にもっていく。そのような評価にしていきたい。」

(寺前委員)

「冒頭に、森田部長が「環境と一言で言っても広範囲なものである」とおっしゃられていて、まさしくその通りだと思います。評価項目の担当課をみると、環境課さんだけでなく、上下水道部、道路課や教育委員会など広域的に実施されていることが分かります。担当課だけの評価だけでなく、第三者たとえば他部署からの評価もつけられないかなということも感じました。労力が伴うため、内部でのご協力もなかなか得にくいかもしれませんが、環境課で実施するのでもよいし、外部の評価も加えられたらと感じました。」

一例として、基本目標①について挙げられているが、説明が分かりにくいと感じたことが、公営施設のバリアフリー化について。市内の公園は確かに改修されてきれいになっていますが、「バリアフリー」というものは、公園へのアプローチに対するものなのか、それとも多目的トイレの設置状況なども含めたものなのか等分かりにくいので、各課精査していただいて、分かりやすく標記していただけたらと思います。」

(久会長)

「なぜ◎なのか、○なのか、コメントしていただくだけで見やすくなります。昨年度の分

の資料があるが、PDCAを回せていません。なぜ回せていないのか。「実績」と書いてしまっていて、「～やりました。」という報告になっているからです。そうではなくて、効果を書いていただくとPDCAが回ります。やってみてこんな成果ができました、というのか、やったけどこんなことが原因で成果には繋がらなかった、というのか。そうすると成果に繋がらなかった部分の要因を分析して次の年の改善につなげられます。そこで初めてPDCAが回ります。なので、CHECKの部分の書き方をこれからは成果が出てきたかどうかという書き方に工夫していただけたらと思います。

事業数をカウントする評価の仕方について、なかなか難しいところがあります。例えば定期的な清掃について。事業数としては1になるが、毎月実施していると12回ということになり、一方で市民講座などは、テーマを変えて実施すると1つ1つカウントしてしまうことになります。カウントの仕方によって凝縮する事業と膨らむ事業とがあるので、カウントの仕方は、実態を反映するような形で的確にできる工夫を検討いただけたらと思います。

さて、事務局より連絡事項はありますか。」

(事務局より連絡事項)

以 上